被災地派遣レポート＜第６６回＞

港湾局 東京港建設事務所 埋立海岸整備課 埋立工事係 坂井 啓吾さん

平成 24 年９月より 10 月までの２ヶ月間、福島県相馬港湾建設事務所に派遣され、現地での生活や仕事を通じて感じたこと等を報告します。

相馬港は、福島県浜通り北部の相馬市及び新地町に位置し、地元福島県はもとより、仙台市・宮城県南部、山形県南部などを背後圏とする海の玄関口で、物流の拠点港としての役割を担っていました。しかし、東北地方太平洋沖地震やそれに伴う津波により甚大な被害を受け、被災以降、災害査定を経て、23 年度末には岸壁や臨港道路等の災害復旧工事が発注され、現在、着々と復旧・復興へ向け工事が進んでいます。

私の赴任した相馬港湾建設事務所の災害復旧担当は、松川浦漁港や真野川漁港等を担当している漁港班と、相馬港の岸壁・臨港道路・野積場等を担当している港湾班の 2 班あり、私は港湾班に配属になりました。

港湾班の福島県職員は、任期付職員２名を含む５名で、それ以外は派遣職員で構成され、大分県が１名、福岡県が２名、東京都が２名の計 10 名の班でした。

漁港班も京都府や長崎県、新潟県などから、５名の派遣職員がおりました。また、派遣職員の年齢層も様々で、20 代から 50 代まで幅広い年齢の職員で構成されていました。

職場の雰囲気は非常に明るく、各地方の言葉が飛び交う非常に興味深い、魅力的な職場でした。また、職員全員が「復興」という先の長いゴールを目指して、突き進んでおり、非常に活気に満ちていました。

東京都の中で働いているだけでは、交流がない他府県の職員と、仕事中やお昼休み等で各府県の話を伺うことが出来たことは非常に良い経験になりました。

港湾班における、東京都チーム 2 名の担当は被災した岸壁の復旧工事です。私が赴任した時には、6 件の岸壁災害復旧工事が行われており、各 3 件ずつ工事を担当し、工事監督を行っていました。

この工事監督を通じ、感じた課題や、福島県の取り組みを述べたいと思います。

一つ目として、現在相馬港では東京都の担当している岸壁も含め、背後の臨港道路や野積場、国の直轄工事である防波堤の工事等複数の災害復旧工事が輻輳しており、作業船や作業エリアの工事間調整が必要であったため、工事を進めたくても進められない状況があり、非常にもどかしさを感じることがありました。

二つ目として、被災前まではふ頭として使用されていた箇所を工事しているため、ふ

頭利用者の要望等で限られた時間の中で工事を完了させなくてはいけないという課題がありました。相馬港湾建設事務所は、ふ頭運営を担当しているセクションが同事務所の同じフロアの中にあったため、調整等を図りやすい環境にあったこともあり、緊密に打合せをしながら工事を進捗させることができました。

三つ目として、国の直轄工事のケーソン製作工事やブロック製作工事等、大量のコンクリートを扱う工事が同時に進行しているため、資材不足が深刻な状況にあり、また、作業員の数も不足しているという状況がありました。そのような状況の下、福島県では、遠方から資材を調達したり、作業員に来てもらう場合には、必要な手続により、当初の金額から差額分を請求できるような制度を新たに作り、状況の打開を図っておりました。

また、私の赴任した時期は、平成 23 年度末に契約になった工事の変更設計が必要な時期でした。これらの工事は、実施設計（標準断面とその延長程度）をもとに契約しているため、契約後に詳細な設計が完成した場合、現場はその詳細設計に基づき工事を進めていました。さらに、東京都は 2、3 ヶ月で担当者が交替しているため、実施設計と詳細設計の各担当者等へそれぞれ連絡を取りながら、詳細設計を反映する変更設計書を作り上げる必要があり、一つの事業に設計者、監督員が複数携わることへの難しさを感じました。

赴任当初、最も印象に残っている話に、相馬港自体は、昭和 40 年から 50 年代にかけ整備を行い、被災前までは、維持管理を進めていくような段階の港であったため、相馬港湾建設事務所の職員数もそれほど多くはなく、被災に伴う復旧工事が何件も出ている状況でも、福島県職員の人数は被災前とあまり変わっておらず、その分、他の自治体職員からの支援によって、成り立っているという話がありました。

そのような話もあり、これまで以上に自らの責任と役割を強く感じながら仕事を進めることができました。

また、赴任した 2 ヶ月はあっという間でしたが、短い期間であったからこそ、集中して迅速に仕事を進めることができ、非常に中身の濃い経験ができたと感じています。

今後は、この派遣で学んだ知識やスピード感・経験を存分に東京都での業務に生かしていきたいと思います。

最後になりましたが、福島県で公私共にお世話になった皆様方、派遣期間中に担当業務を支えて下さった皆様には心より感謝したいと思います。